

(正)

## 公開特許公報

特許願 1

2000円 2000円  
(4,000円)

昭和50年11月26日

特許庁長官 殿

## 1. 発明の名称

キジ ジトウコンレンシイシツホウオ  
パン生地の自動混練排出方法

## 2. 発明者

ラビシユコウ  
埼玉県狭市中央7丁目10番8号  
アイコウシャセイサクショナイ  
株式会社愛工舎製作所内氏名 牛 廉 誠 外1名  
ウシ クボ ケイ ジ

## 3. 特許出願人

ラビシユコウ  
埼玉県狭市中央7丁目10番8号  
アイコウシャセイサクショナイ  
株式会社愛工舎製作所  
代表者 牛 廉 誠 外1名  
ウシ クボ ケイ ジ

## 4. 代理人

東京都港区六本木3-2-21  
六本木スカイハイツ506  
TEL (586) 8789

氏名 弁理士 (7528) 小林和應

## 明細書

## 1. 発明の名称

パン生地の自動混練排出方法

## 2. 特許請求の範囲

下底部に導出孔を備えたミキシングポール内で、パン生地を混練するときはその導出孔を開鎖した状態で混練アームとの協働で当該パン生地を搅拌混練し、かつその混練したパン生地を取出すに際しては上記の導出孔を開孔して混練アームで搅拌しながら導出スクリューにより強制的に導出し、該導出したパン生地をコンベアー機構で次工程へ搬送するようにしたことを特徴とするパン生地の自動混練排出方法。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は、パン生地の混練排出を自動的に行う新規なパン生地の自動混練排出方法に関する。

パン生地をミキシングポール内で混練用アタッメントにより充分搅拌混練し、該混練した生地を次工程に供給する場合、従来においては、ミキシングポール中の混練生地を手作業的にいちいち

⑯ 特開昭 52-66651

⑯ 公開日 昭52.(1977)6.2

⑯ 特願昭 50-140819

⑯ 出願日 昭50.(1975)11.26

審査請求 未請求 (全4頁)

序内整理番号

7162 49  
2118 21

⑯ 日本分類	⑯ Int.CI <sup>2</sup>	識別記号
34 BC 35 AU	A21D 8/02// A21C 1/00	

取り出し処理しているため、その作業は極めて非効率的であつた。

本発明は、上記のような事情に鑑みて研究開発されたものであつて、その目的とするところは、ミキシングポール中でパン生地を充分に搅拌混練するとともにその混練したパン生地をさらに混練させながら当該ミキシングポール外に極めて効率的に排出し得るようにしたパン生地の自動混練排出方法を提供するにある。

以下に図面について本発明の方法による実施例を説明する。

先ず、本発明の方法を実施するための好適な装置の1例を第1図ないし第3図について説明すると、符号1は台本体であり、この台本体1上に脚台2が第3脚において左右方向に回転可能に取付けてある。上記の台本体1と脚台2とによつて形成される凹状の空間部3内にはミキシングポール4が装着され、蓋体5を介して回転可能かつ固定的に支持されるようになつている。上記のミキシングポール4の中心部には回転体6が配設され、

BEST AVAILABLE COPY

特開昭52-66651(2)

14d 間に搬送供給するようになつてゐる。上記の第2及び第3ベルト14a、14bは第1回に双頭の矢印で示す方向に自由に回動され所望の角度位置に位置決めされるようになつてゐる。

さて、上記のように構成された装置を使用してパン生地を自動的に混練して排出させる作用を説明すると、先ず回転軸8を第2図において下降させ、その押圧体7の開口縁部をミキシングポール4の内底面に押圧接触させる。すなわち、押圧体7の開口縁部が導出孔4aを包囲し、導出スクリューアーム13は該導出孔4aから外部へ延出される。この状態において、上記のミキシングポール4内に通常のようにパン生地を投入し、回転軸8及び混練アーム10を互いに逆方向に回転させる。するとミキシングポール4内に投入された生地材料は、該ミキシングポール4の回転と混練アーム10の回転によつて、充分に搅拌混合され、パン生地としてミキシングポール4内で生成される。このようにして、混練された生地を次工程で処理するため、ミキシングポール4内からパン生地を取

該回転体6はその下部にラッパ状の押圧体7が一体に設けてある。この押圧体7は上記のミキシングポール4の内底中央部に明けた導出孔4aを包囲する径を持ち、かつ、押圧体7がミキシングポール4の内底面に押圧されたとき、その液密が充分に達成されるよう考慮されている。

上記の回転体6は回転軸8に吊持されており、該回転軸8には此腹筒9が設けてあつて、しかも回転軸8の上端部は上記の脚台2内に配装されていて、駆動源に連動してある。また、上記の回転軸8は図面において垂直方向に上下動されるようになつてゐる。上記の回転体6に隣接して混練アーム10が配装してある。混練アーム10は全体がスパイラル状に形成されていて、その上端は前記の脚台2内に配装され駆動源に連動させてある。

前記の台本体1内は空洞部11に形成されていて、その底部には第1ベルト12が配装されている。この第1ベルト12は上記の回転軸8の下端に取付けられた導出用スクリューアーム13によつて導出される生地を受け止め第2及び第3ベルト14a、

出す場合について説明すると、回転軸8を第2図において上方へ移行させ、押圧体7をミキシングポール4の内底面から離脱させる。すると、導出スクリューアーム13が導出孔4a内に一部導出された状態でかつ導出孔4aが開放された状態となる。なお、この場合ミキシングポール4は図面に示されてないロック機構によつてロックされる。そこで、前記と同様に回転軸8を回転させれば、導出スクリューアーム13が回転され、これとともに混練アーム10をも回転させれば、混練生地は混練アーム10でさらに混練されながら、隙間部15を介して導出スクリューアーム13で導出され、第1ベルト12上に落される。この落下されたパン生地は第1ベルト12で第2図において左方へ搬送され、第2及び第3ベルト14a、14b間に挟持されてそのまま次工程の処理工程へ搬送される。

以上詳細に説明したところから明らかかのように本発明の方法によれば、ミキシングポール内でパン生地の材料を充分に搅拌混練した後、該混練生地をミキシングポールの下底部から自動的に次工

程へ排出処理できるため、その作業能率が大幅に向上化される効果がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

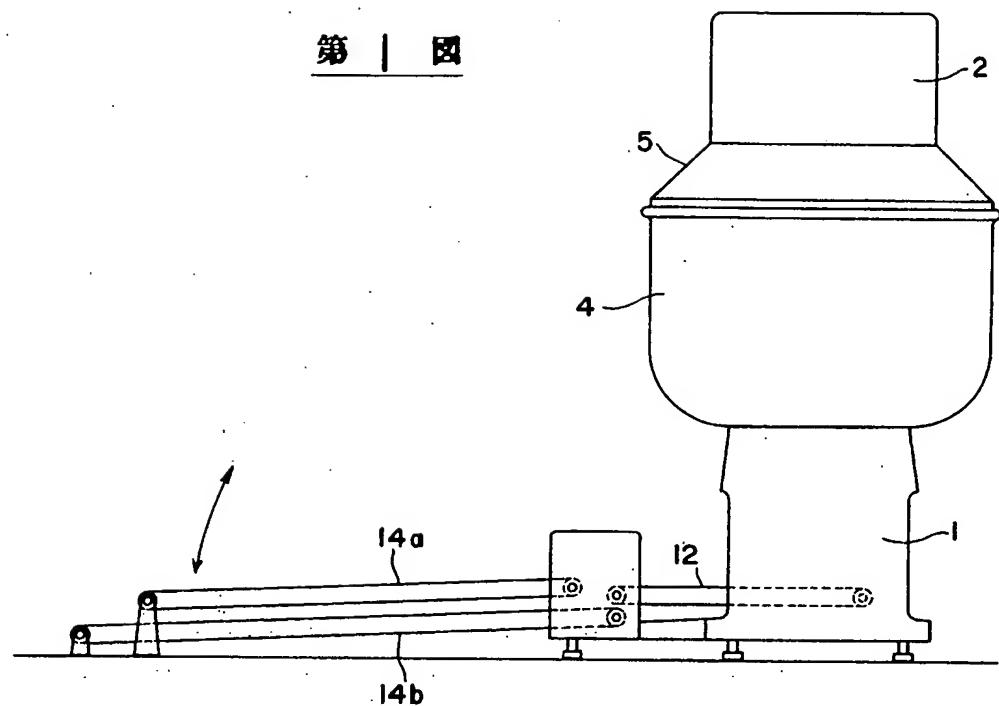
図面は本発明の方法を実施するための好適な装置の1例であつて、第1図は全体の略図的説明図、第2図はパン生地を混練する状態の装置要部の断面図、第3図はパン生地を取出す状態の装置要部を断面にした側面図である。

#### 符号の説明

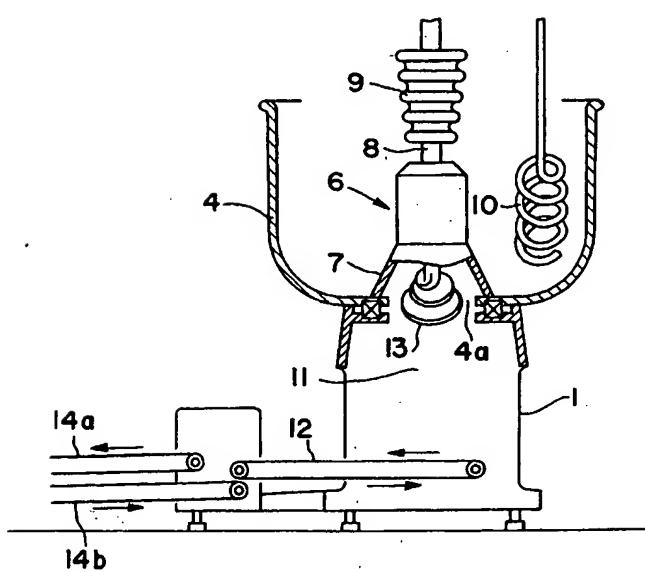
4はミキシングポール、4aは導出孔、10は混練アーム、13は導出スクリューアーム、12、14a、14bはコンベアー機構。

BEST AVAILABLE COPY

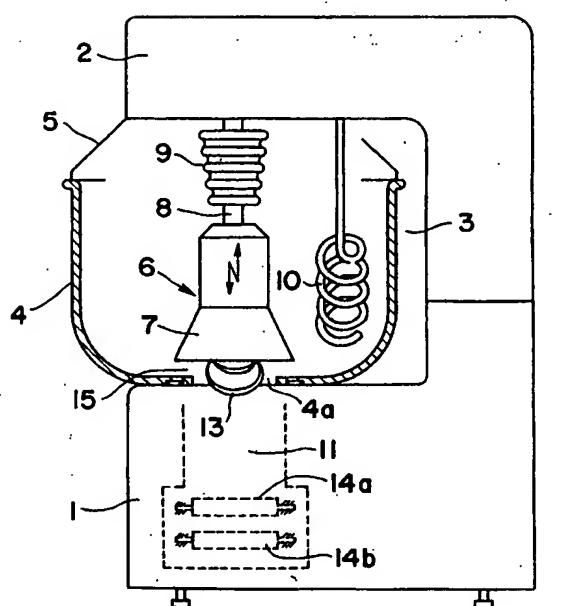
第1図



第2図



第3図



特開昭52-66651(4)

手続補正書(方式)

昭和51年1月16日

特許庁長官 齊藤英雄

5.添付書類の目録

(1)明細書	1通
(2)図面	1通
(3)願書副本	1通
(4)委任状	1通(追完)

6.前記以外の発明者

埼 瓦ビンチコウオウ  
住 所 群玉県蕨市中央7丁目10番8号  
株式会社愛工舎製作所内  
氏 名 高野賢三

アイコウシャセイサクショナイ

タカノケンソウ

1.事件の表示

昭和50年特許願第140819号

2.発明の名称

パン生地の自動混練排出方法

3.補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 埼玉県蕨市中央7丁目10番8号

名 称 株式会社愛工舎製作所

代表者 牛込啓司

4.代理人

住 所 東京都港区六本木3-2-21  
六本木スカイハイツ506  
TEL (586) 8789

氏 名 弁理士(7528)小林和義

5.補正命令の日付

昭和 年 月 日

6.補正の対象

願書の添付書類の目録の欄

7.補正の内容

代理権を証明する書面(委任状)を提出  
します。

BEST AVAILABLE COPY